第６学年　社会科　学習指導案

１．小単元名『日本とつながりの深い国々～世界とつながるウチナーンチュ～』

（教科書：『小学社会６下』p. 40～59／学習指導要領：内容（３）ア，イ）

２．小単元の目標

日本（沖縄）とつながりが深い国々の人々の生活の様子や世界のウチナーンチュ大会の取り組みを調べ，学び合うことを通して，世界の人々と共に生きていくためには，異なる文化や習慣を理解し合い，お互いを尊重していくことが必要であることを捉える。

３．小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
世界にはさまざまな国々があり，それぞれに特有の文化や習慣をもっていること，沖縄県が世界のウチナーンチュ大会を通して世界の国々と協力･交流していることに興味をもち，意欲的に調べようとしている。	世界の人々の生活の様子について学習問題を見いだして調べ，日本（沖縄）との相違点･類似点やそのつながりについて考えている。 文化や習慣の多様性を理解し，それぞれの価値観を認め合いながら国をこえて協力･交流していくことの大切さを考え，適切に表現している。	地図や地球儀，各種の資料を活用したり，活動に携わっている人や機関に問い合わせたりして調べることができる。 世界の人々の生活の様子や，世界のウチナーンチュ大会の交流･国際協力の具体的な事例について調べたりまとめたりしている。	外国の生活や文化のよさや特徴，日本（沖縄）とのつながりについて理解している。 世界の人々と共に生きていくためには，異なる文化や習慣を理解し合い，お互い尊重していくことが大切であることを理解している。

４．指導にあたって

（１）児童の実態

６年生は，「歴史上の人物の業績や文化財・時代の移り変わり」や「暮らしの中の政治」について学んできた。児童の学びの過程に注目すれば，歴史的・政治的事象について図書資料やインターネット情報を活用して調べたり，家庭学習で得た知識を生かしたりしながら，授業に積極的に取り組んできた。本小単元においても，日本（沖縄）と経済や文化などでつながりが深い国の人々の生活の様子について，意欲的に追究活動をしていくものと考える。

本校の近郊には，米軍施設があり，施設内の小学校との交流の歴史は 20 年余である。児童の異文化にふれる機会は多く，また米国を含めての外国への関心は高いものと考える。昨年度は，総合的な学習の時間や英語活動で施設内の小学校との交流学習も行っている。しかし，米国を含めて諸外国のことを漠然としたイメージでしか捉えていない児童がほとんどである。児童の知識は断片的で

あり，諸外国について正しく理解したり，日本とのつながりを考えたりするまでには至っていない。

本小単元についてのアンケートでは，「外国の文化や歴史に興味がある」は約 70%。その理由には「世界がどんな生活をしているのか知りたい」が多く，特に外国の食事について関心が高い。そして，日本と外国の差を知りたいなど，日本と外国を比べて考える児童の声もあった。また，「行ってみたい・興味のある外国」については，アメリカ，フランス，オーストラリア，ドイツ，中国…と続き，日本と関わりの深い外国については，アメリカ，中国，オランダ，北朝鮮の順になった。一方で，沖縄と関係の深い国については，アメリカ（基地・経済），中国（文化・歴史・領土問題）と捉えている。

（2）教材について

本小単元では，学習指導要領第６学年の目標を受け，児童が興味・関心を抱く世界の国（教科書で取り上げられた国を中心に）を選択し調べていくという学習が一般的である。しかし，本県の子どもにとって，「世界のウチナーンチュ大会」を切り口にして学習を進めることは，沖縄の歴史的背景を学びながら，諸外国とのつながりやそこに住む人々の暮らしの様子，多様な文化を比較し理解するうえで効果的である。大会の目的や内容，それに参加したり携わったりする人々について調べることで，異なる文化や習慣の違いを理解し，世界中に広がるウチナーンチュが互いに尊重しながら共に生きていく「絆」の大切さに気づくことができる。

（3）指導上の工夫・留意点

本小単元では，まず身近な地域と外国とのつながりを実感させるため「世界のウチナーンチュ大会」という地域素材を生かして，児童の追究活動へつなげる。ゲストティーチャーを招いたり，他国の文化を体験させたりして，より生きた情報を獲得させ，外国に対する興味と関心を高め，理解を深めるようにさせる。

「問題をつかむ」段階で最も意識することは，児童と中心教材「世界のウチナーンチュ大会」の出会いである。画像や映像，プログラムなどで大会の様子をつかみ，そこに参加する団体や参加者，多種多様な文化について興味・関心を高めて，意欲的な追究活動へとつなげる。

「調べる・深める」段階においては，児童が調べる国として大会参加団体や参加者，県人会などを中心に取り上げるが，調べる資料などの吟味も重ねながら，ある一定の地域だけに偏らないようにして，世界各地へ広がりをもたせる。また，資料で十分に調べ学習を行わせる手立てとして，机上だけでの理解に終わらないよう，外国人や移住経験者のゲストティーチャーからインタビューしたり，異文化を体験したりする活動を取り入れ，実感を伴った学習へとつなげる。

「生かす」段階においては，主催する県の目的や若者たちの考え，参加者の思いを捉えさせることにより，ウチナーンチュとして，異文化を理解し尊重しながらつながり続ける大会の意義を考えさせる。世界で今も続く紛争などを踏まえながら，世界へさきがける沖縄県の取り組みについて自分なりの感想をもたせたい。

実際の授業においては，まず教材提示や発問で意欲を高め，社会事象を「自分ごと」として捉えさせる。次に，対比的な板書の工夫により，子どもの思考を視覚化して整理する。さらに，ペアやグループ学習でお互いの意見の共有を図り，自分の考えと友だちの考えとの比較・分類などによっ

て，社会的な見方・考え方が高められるように努める。

５．小単元の指導計画（総時数 13 時間）

時	ねらい	○学習活動　・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
①②（つかむ）	世界のウチナーンチュ大会には，さまざまな国から多くの人たちが参加していることを知り，沖縄と外国とのつながりに気づくことができる。	○大会の画像や映像を見て，気づいたことを発表する。 ・肌の色，着る物などの違いから，外国人が参加していることを知る。 ○どこから参加しているか，なぜ参加するのかを予想する。 世界のウチナーンチュ大会に参加する人たちの国は，どんな生活や文化，習慣をもっているのだろう。	◎世界ウチナーンチュ大会の写真，DVD，ポスター ◎世界地図（掲示），地球儀 ◇国の位置や地形，北極や南極，赤道，大陸名を捉える。 ◆世界のウチナーンチュ大会を知り，沖縄と外国とのつながりに興味をもっている。 （関・意・態／発言・ノート）
	大会に参加する外国人や沖縄への留学生の話を聞いて，その国の地理的環境の特徴，気候の特徴などによる生活環境の違いに気づき，日本と世界の国々とのつながりについて学習問題を立てることができる。	○ゲストの話をメモしながら，その国の様子を聞き取る。 ・国の基本的な事柄（位置，面積，人口，首都，言語，あいさつの言葉など） ○地理的環境の特徴，気候の特徴などによる生活環境の違いに気づき，学習問題を設定する。 世界の人たちの文化や習慣は，私たちとどのようにちがうのだろう。 また，日本・沖縄とどのようなことで深く結びついているのだろうか。	◎世界地図（掲示），地球儀 ◎ゲストの国の生活用品や写真，映像 ◇ゲストに話してほしい内容を事前に伝えておく。 ◆外国の地理的環境の特徴，気候の特徴などによる生活環境の違いを聞き，学習問題を立てている。 （思・判・表／発言・ノート）
③（調べる）	興味・関心や問題意識にもとづいて，調べたい外国を一つ決め，その国について調べていく計画を立て，学習の見通しをもつことができる。	○大会参加者や留学生の出身国から，調べたい国を一つ選ぶ。 ・どのような興味や問題意識をもち，どのような方法でその国を調べるのかを考えさせる。 ・調べる国 （北米）アメリカ （南米）ブラジル，ペルー （アジア）中国，韓国 （欧州）ドイツ ○教科書「学びの手びき」を参考に，調べる計画や方法を考える。	◎教科書，地図帳，地球儀 ◇調べ学習のあとに，日本や沖縄と世界との違いやつながりについて，発表・交流（共有）することを伝えておく。 ◆何を利用してどのように調べるのか，学習手段の見通しをもっている。 （技／発言・ノート）

④⑤⑥⑦（調べる）	学習計画にそって，自分の問題を解決するために調べることができる。	○選んだ国について，教科書や地図，地球儀，図書資料，統計資料，インターネット，その他の資料などで調べる。 ○ゲストティーチャーから聞き取りをしたり，異文化を体験したりする。 ・調べる共通の観点 ①人や物の行き来 ②国土の特徴 ③その国の暮らしの様子 ④習慣や文化はどう違うか？ ⑤日本から伝わったものはあるか？ ○教科書「学びの手びき」を参考にして，発表内容や資料提示の仕方を考える。	◎教科書，地図帳，図書資料，インターネット資料 ◇入手が困難なものは事前に準備しておく。 ◇効果的に相互交流させるため，共通の観点を取り入れる。 ◆自分の調べたいことに応じた資料を探して，調べている。 （技／ノート）
⑧（まとめる）	調べてきたことを発表し，話し合うことを通して，学習の成果を共有することができる。	○発表会の進め方を確認する。 （発表のポイント） ・話す順序や時間の配分 ・聞きやすい話し方や声の大きさ （聞くときのポイント） ・自分の調べた国と比較する ・疑問に思ったこと，考えたことをメモし，発表後に自分の考えを伝える ○ポスターセッション形式で発表し，学習成果を共有する。質問や疑問，感想を発表し合う。 世界の人たちとともに生きるためにどのようにすればよいのだろう。	◎世界地図（掲示），教科書，地図帳，各自の発表資料 ◇発表会の目的，伝える相手，伝える内容を事前に確認しておく。 ◆調べた国の特色をつかみ，日本や沖縄とのつながりについて理解している。 （知・理／ノート）
⑨（深める）【本時①】	それぞれ調べてきた国の特色を学び合い，世界の国々と日本・沖縄とのつながりについて相違点や類似点を見つけ，その関わりについて，見方や考え方を広げ深めることができる。	○世界の国々と日本・沖縄とのつながりを確認する。 ・各自調べてきたこと（つながり）をカードに記入して黒板に掲示する。 ・日本や沖縄とのつながり，それぞれの国の共通点や特色などを見いだすために，比較して考える。 ○異文化の生活，またそのつながりについてまとめる。 ○異文化の人たちとの生活について考えて発表する。	◎世界地図（拡大），地図帳，地球儀，各自の発表資料 ◆自分で調べたことや友だちの発表から，調べた国の特色をつかみ，世界の国々と日本・沖縄がどのようにつながっているのかを考え，表現している。 （思・判・表／発言・ノート）

⑩⑪⑫⑬（生かす）	世界のウチナーンチュ大会を調べ，参加者や参加地域の広がりなどから，世界のウチナーンチュ大会が継続している理由を考える。	○大会の継続，参加者や地域の広がりを資料から読み取る。 ・大会参加者数のグラフを読み取る。 ・大会参加国の地図を読み取る。 どうして世界のウチナーンチュ大会には異文化の人たちが多く集まるのだろう。 ○なぜ，沖縄に集まるのかを予想する。	◎世界のウチナーンチュ大会の参加者数の推移グラフ ◎大会の DVD，参加国地図 ◇大会の継続，世界中への広がりを視覚化する。 ◆なぜ，沖縄に世界の国々の人たちが集まるのかに関心をもっている。 （関・意・態／発言・ノート）
	異なる言語・歴史・文化などをもつ人たちが，沖縄というつながりを大切にしながら絆を深めていることを知る。	○参加している人たちについて知る。 ・参加者の声や手紙を読み取る。 ・ゲストから大会参加への思いや喜びを聞き取る。 ○大会主催の目的や意義を知る。 ・プログラムやポスターから読み取る。 ・ゲストから大会への思いを聞き取る。	◎参加者の手紙，大会資料 ◇事前に講話内容（沖縄への思い）をゲストと確認する。 ◆異なる文化をもつ人たちが沖縄とのつながりを大切にしながら，絆を深めていることを理解している。 （知・理／ノート）
【本時②】	沖縄のよさについて考え，外国の人たちと共に生活していくために大切なことは何か，自分なりに考えることができる。	○なぜ，大会に世界から多くの人が集まるのかを話し合う。 ・ゲストや資料などから調べたことを発表する。 ○世界の人たちを魅了する沖縄のよさを出し合い，世界の人たちとの共存・共生について考える。 ○これからの自分について考える。	◇前時までの学習を生かしながら，異文化理解を進める沖縄のよさを考えさせる。 ◆外国の人たちと共に生活していくために大切なことを学び合い，自分なりの意見をもっている。 （思・判・表／発言・ノート）

６．本時の指導①（第９時）

（１）本時のねらい

それぞれ調べてきた国の特色を学び合い，世界の国々と日本・沖縄とのつながりについて相違点や類似点を見つけ，その関わりについて，お互いの見方や考え方を広げ深めることができる。

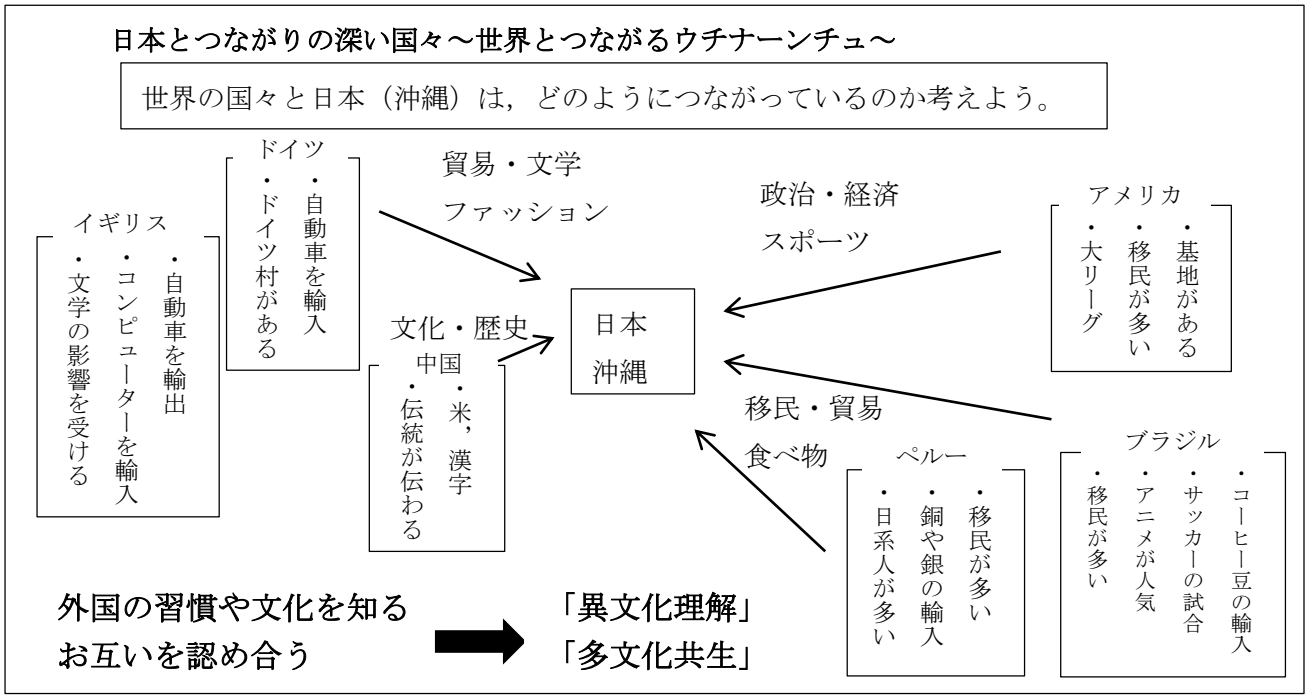
（２）本時の展開

時配	○学習活動　T：発問　C：児童の反応	◎使う資料　◇留意点　◆評価
5	○調べた国の場所を確認し，前時のふり返りをする。 T：調べてきた国はどんな生活をしていましたか。 C：中国は日本の隣で，いろんな民族が集まっている国。 C：北米にアメリカ，南米にペルーやブラジルがあったね。	◎世界地図（拡大），グループで調べてきた資料 ◇日本（沖縄）との位置関係や距離を捉えさせ，どんなつながりがあるか意識させる。

世界の国々と日本（沖縄）は，どのようにつながっているのか考えよう。

35	○調べた国と日本（沖縄）とのつながりについてグループでまとめ，気づいたことを発表する。 T：グループで調べてきたことの中で，日本や沖縄とつながりのある事柄をカードに書き，黒板に貼りましょう。 T：（作業後）世界と日本や沖縄のつながりについてわかったこと，気づいたことを発表しましょう。 C：アメリカ合衆国とは，政治や経済で深くつながっているね。中国は，文化・貿易・伝統などで交流が密にあるな。 C：ブラジルは日本からの移民が多いね。（沖縄移民）	◎世界地図（拡大） ◎地図帳，地球儀 ◇学習したこと，調べてきたことをノートでふり返り，考えさせる。 ◇黒板全体を世界地図に見立て，国の名称を書いたカードを貼り，視覚化する。
	世界の人々とともに生きていくためにはどうすればいいのか考えよう。	
	○外国の人々と共に生きていくためには，何が大切であるか考え，異文化理解，多文化共生に気づく。 T：外国の人々と共に生きていくためにはどうすればいいでしょうか？ C：その国の歴史や文化を知ることも大切だし，お互いを認め合うことが必要だね。 C：外国の習慣や文化を理解することが大切だね。	◇グループの考えを全体で共有し，異文化理解，多文化共生について考えを深めさせる。
5	○授業のふり返りを行い，ノートに感想を書く。 ・世界とのつながりについて ・異文化理解や多文化共生について	◆調べた国の特色をつかみ，世界の国々と日本・沖縄がどのようにつながっているのかを考え，表現している。 （思・判・表／発言・ノート）

（3）板書計画



７．本時の指導②（第 13 時）

（１）本時のねらい

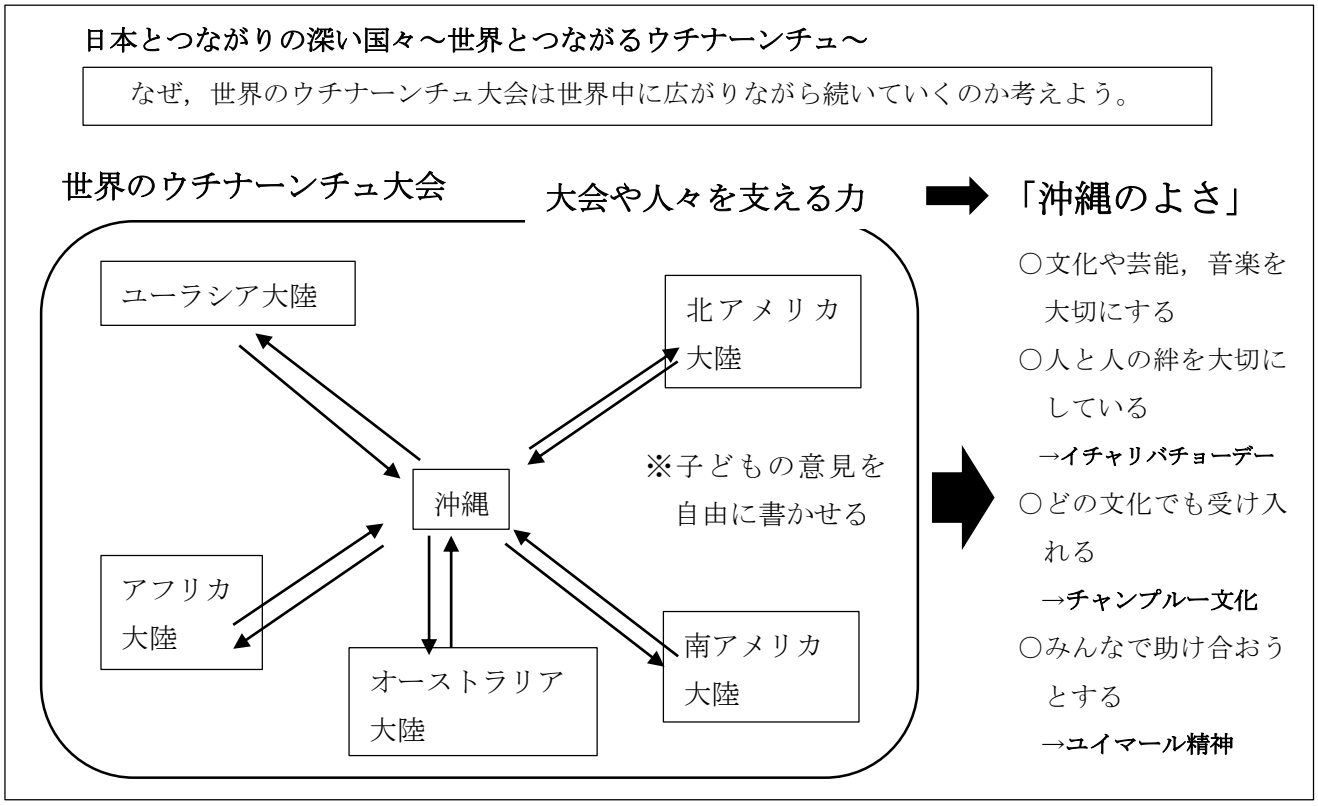
世界のウチナーンチュ大会が継続している理由と沖縄のよさをつなげて考え，外国の人たちと共に生活していくために大切なことは何か，自分なりに考えることができる。

（２）本時の展開

時配	○学習活動　T：発問　C：児童の反応	◎使う資料　◇留意点　◆評価
5	○世界のウチナーンチュ大会が，世界中に広がり，続いていることを読み取る。 T：世界のウチナーンチュ大会は五年に一度沖縄で開かれていました。最近では，若者たちによる「世界若者ウチナーンチュ大会」が世界各地で開かれるようになりました。（国旗を見せながら）さあ，どこの国でしょうか。 C：ブラジル，アメリカ，ドイツ。 C：ブラジルは南米だから遠い，フィリピンはアジアの国。 なぜ，世界のウチナーンチュ大会は世界中に広がりながら続いていくのか考えよう。	◎世界地図（拡大），グループで調べてきた資料 ◎地図帳，地球儀 ◎国旗カード ◇国旗クイズで全員が意欲的に参加できるようにし，大会の世界的な広がりを捉える。 ◇世界地図を黒板に見立て，沖縄と開催国との位置関係を視覚化する。
35	○大会が世界中に広がりながら続いていく理由を考え，グループで話し合う。 T：大会が世界中に広がっていく理由を考えましょう。自分の考えをノートに書いてください。 T：（作業後）グループで意見を出し合い，まとめ上げて，黒板に書き出しましょう。 C：沖縄の魅力を感じて，伝わっている。 C：家族，親戚，仲間に会えるから。 C：異文化の交流ができるから。 世界のウチナーンチュ大会やそれに関わる人たちを支えている「沖縄の力」とは何か考えよう。	◇グループで話し合わせたり，黒板に意見を自由に書かせたりすることで，交流した友だちの考えから，新たな見方や考え方をつかませる。
	○世界のウチナーンチュ大会やそれに関わる人々の原動力を考える。 T：なぜ，沖縄だけが世界大会を開くことができるのでしょうか。世界の人たちをつなげる理由は何でしょうか。 C：ふるさとの歌や三線，芸能などの伝統文化を大切にして，誇りにしているところ。 C：「イチャリバチョーデー」や「ユイマール」という言葉があるように，みんなで助け合っていこうという気持ち	◇これまでの学習をもとに，大会を支える力（沖縄のよさ）について考えさせる。 ◇板書事項や子どもの発言をつなぎ，沖縄のよさについて黒板にまとめる。

	が強いから。 C：「チャンプルー文化」という言葉どおり，どんな文化も受け入れてお互いのよさを取り入れようとするから。	
5	○授業のふり返りを行い，ノートに感想を書く。 T：これまでの授業をふり返りながら，世界の人々と共に生きていくために必要なことを考えましょう。 ・世界とのつながりについて ・異文化理解や多文化共生について	◆外国の人たちと共に生活していくために大切なことを学び合い，自分なりの意見をもっている。 （思・判・表／発言・ノート）

（3）板書計画

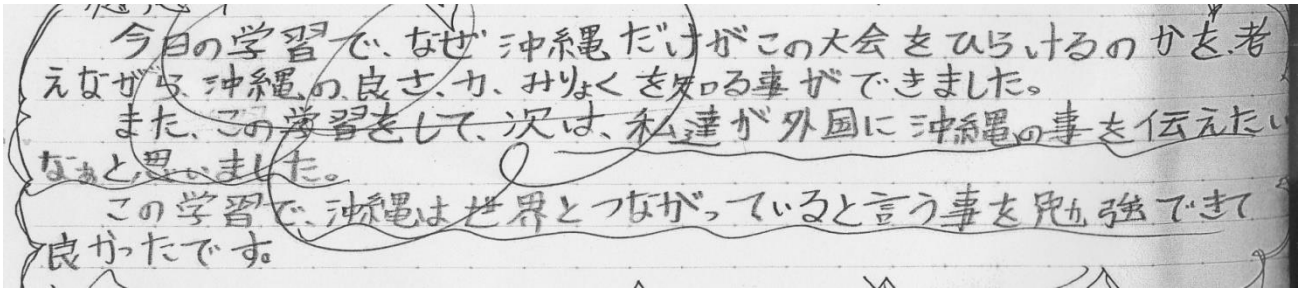


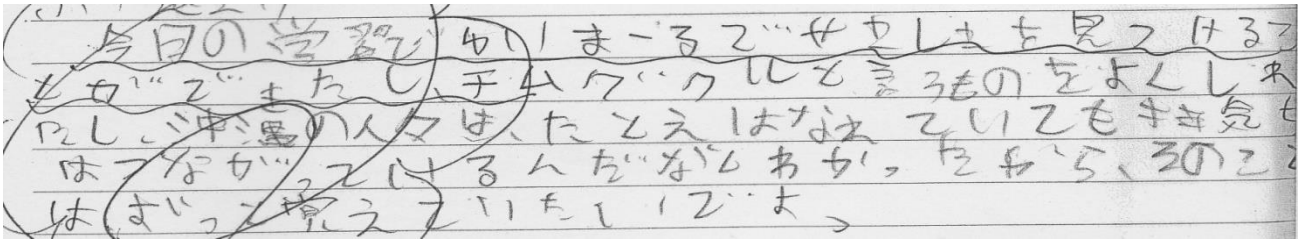
８．備考

本小単元は，児童にとって興味・関心のある国を選んで調べ，まとめて共有する学習である。毎回，図書館やインターネットを活用して異文化理解へつなげようとしたが，多くの課題があった。今回は，「世界のウチナーンチュ大会」を教材開発することで，問題解決としての調べ学習が位置づけられ，つながりある異文化を身近に感じることができた。また，異文化理解や多文化共生について，大会の取り組みに触れることで，児童が自分なりの考えを深めることができたと感じる。

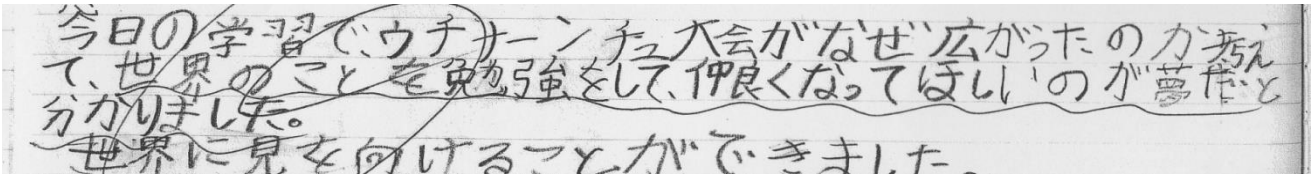
授業後の感想は，社会科学習の楽しさ・意義についてのものが多数を占め，次の 3 点に集約される形で児童の変容が見られた。①世界や人と人のつながりを意識している。②授業や他者との交流を通して未来の自分を思い描いている。③地域のよさを再発見して自分たちの文化に誇りを感じている。

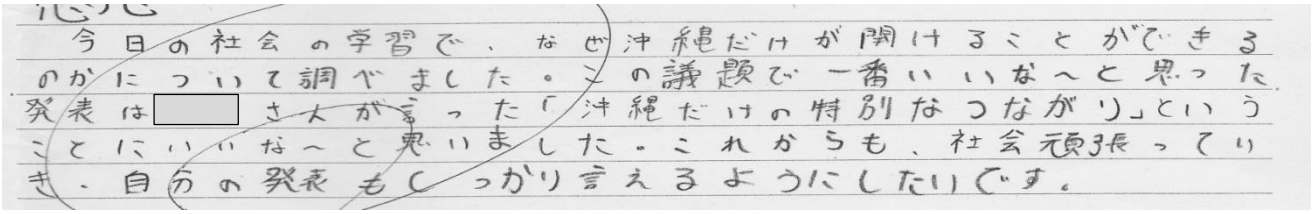
【授業後の感想】①世界や人と人のつながりを意識


今日の学習で、なぜ沖縄だけがこの大会をひらけるのかを考えながら沖縄の良さ、力、みりょくを知る事ができました。
また、この学習をして、次は、私達が外国に沖縄の事を伝えたいなぁと思いました。
この学習で、沖縄は世界とつながっていると言う事を勉強できて良かったです。

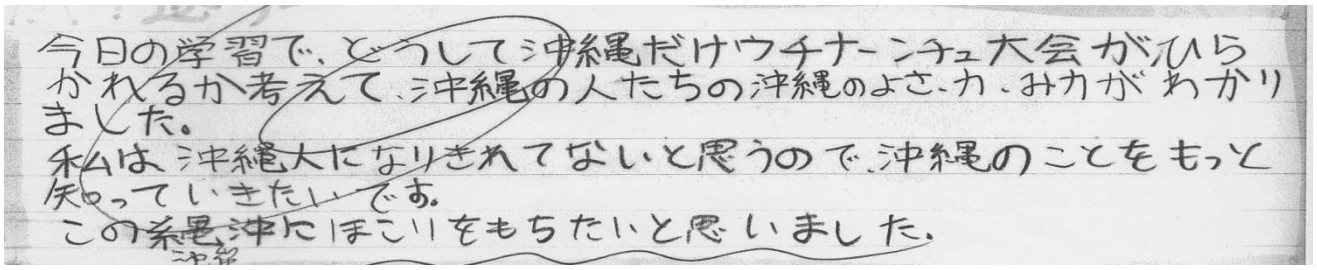


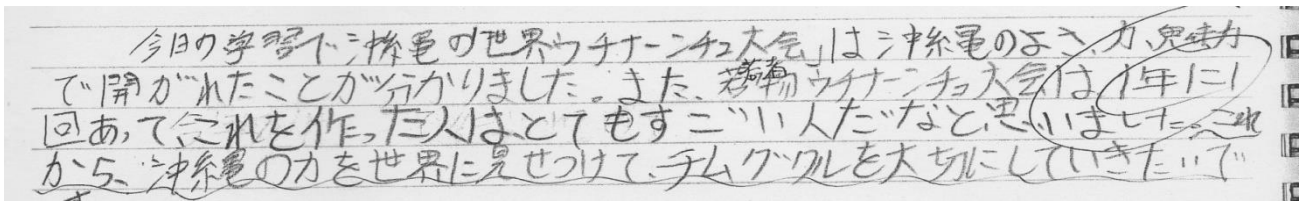
【授業後の感想】②授業や他者との交流を通した成長→未来の自分を描く

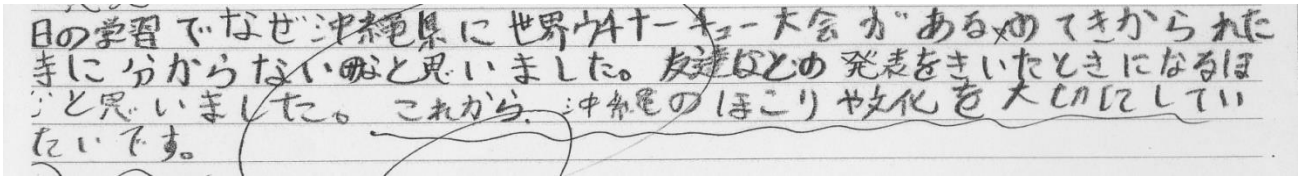

今日の学習で、ウチナーンチュ大会がなぜ広がったのか考えて、世界のことを勉強をして、仲良くなってほしいのが夢だと分かりました。
世界に見を向けることができました。


今日の社会の学習で、なぜ沖縄だけが開けることができるのかについて調べました。この議題で一番いいなへと思った発表は［　　］さんがうった「沖縄だけの特別なつながり」ということにいいなへと思いました。これからも、社会頑張っていき、自分の発表もしっかり言えるようにしたいです。

【授業後の感想】③地域のよさを再発見→自文化理解


今日の学習で、どうして沖縄だけウチナーンチュ大会がひらかれるか考えて、沖縄の人たちの沖縄のよさ、力、みりょくがわかりました。
私は沖縄人になりきれてないと思うので、沖縄のことをもっと知っていきたいです。
この系譜、沖にほこりをもちたいと思いました。


今日の学習で沖縄の世界ウチナーンチュ大会」は沖縄のよさ、力、魅力で開かれたことが分かりました。また、海外ウチナーンチュ大会は1年に1回あって、これを作った人はとてもすごい人だなと思いました。これから、沖縄の力を世界に見せつけて、チムグクルを大切にしていきたいです。


日の学習でなぜ沖縄県に世界ウチナーンチュ大会があるのかてきかられたまに分からないなと思いました。友達などの発表をきいたときになるほどと思いました。これから、沖縄のほこりや文化を大切にしていたいです。